

事例番号:320143

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 3 日

5:48 陣痛開始のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 3 日

8:27 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 3 日

(2) 出生時体重:2700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施なし

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 6 日 哺乳不良

生後 7 日- 発熱

生後 8 日 傾眠傾向、体幹に発疹出現

生後 9 日 無呼吸発作、痙攣出現

生後 16 日 PCR 検査(便、咽頭、血液、髄液)にてヒパ<sup>o</sup>レウイルス 3 型遺伝子を検出

(7) 頭部画像所見:

2 歳 0 ヶ月 頭部 MRI で大脳基底核・視床に明らかな信号異常は認めず、脳室周囲白質に信号異常を認める

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名、小児科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 1 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、ヒパ<sup>o</sup>レウイルスが原因の急性脳症による脳損傷を生じたことであると考える。

(2) 急性脳症の発症時期は生後 9 日前後の可能性が高い。

**3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)**

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

陣痛発来のため入院としたこと、分娩経過中の管理(断続的な分娩監視装置装着による胎児心拍数モニタリング)、経膈分娩としたことは、いずれも一般的である。

3) 新生児経過

新生児の管理は一般的である。

**4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項**

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

分娩監視装置等の医療機器については時刻合わせを定期的に行うことが望まれる。

【解説】本事例では、実際の時刻と胎児心拍数陣痛図の印字時刻にずれがあった。徐脈の出現時刻等を確認するため、分娩監視装置等の医療機器の時刻合わせは重要である。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

ヒパレウイルスによる脳症と思われる症例を蓄積し、感染経路や予防方法を検討することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。